



2018年度 決算説明会

2019/5/10

 不二製油グループ本社株式会社

アジェンダ

- | | | |
|---|---|------|
| 1 | CEO 清水 洋史
総括 | P 3 |
| 2 | CFO 松本 智樹
FY2018実績 FY2019業績予想 | P 6 |
| 3 | Blommer Chocolate Company
Chairman 酒井 幹夫
Blommer FY2019計画
チョコレートのグローバル戦略 | P 24 |

FUJI OIL HOLDINGS CxO Meeting



1.総括

CEO 清水 洋史

エグゼクティブサマリー

「起」

2017年度

新たな挑戦への着手

- ・営業利益205億円

「承」

2018年度
実績

「転」「結」に結びつけるための重要な年

- ・営業利益185億円（M&A等の一過性費用の発生により減益）
- ・「コアコンピタンスの強化」の推進（Blommer・Industrial Food Servicesの買収）
- ・大豆事業の構造改革
- ・グローバルガバナンスの強化

「転」

2019年度
業績予想

「結」に向けた変化を進める

- ・営業利益予想240億円:既存事業も含め着実な成長を目指す
- ・Blommerグループ会社化後初年度:経営効率改善の継続
- ・不二製油とのシナジーの創出、チョコレートグローバル戦略の強化
- ・成長に向けた投資の実施

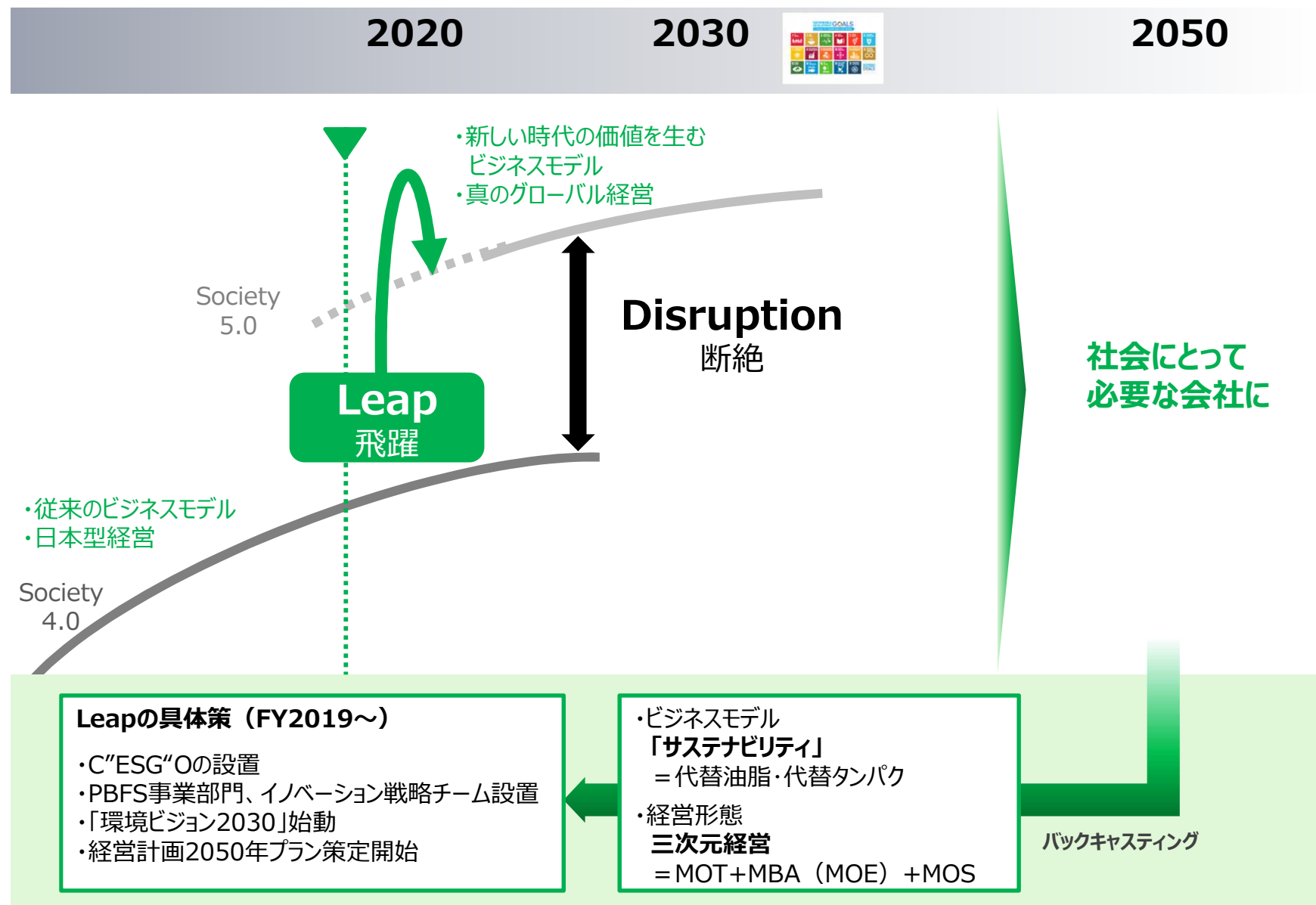
「結」

中期計画
最終年度

変化の実現

- ・営業利益成長率CAGR6%、EPS成長率CAGR8%の達成
- ・CF経営を推進し、次なる打ち手
- ・新たな課題認識により、次期中計につなげていくための布石に

Disruptionを超えるために





2 . FY2018実績 FY2019業績予想

CFO 松本 智樹

FY2019 セグメント変更を実施

FY2018 旧セグメント 営業利益

FY2019 新セグメント 営業利益

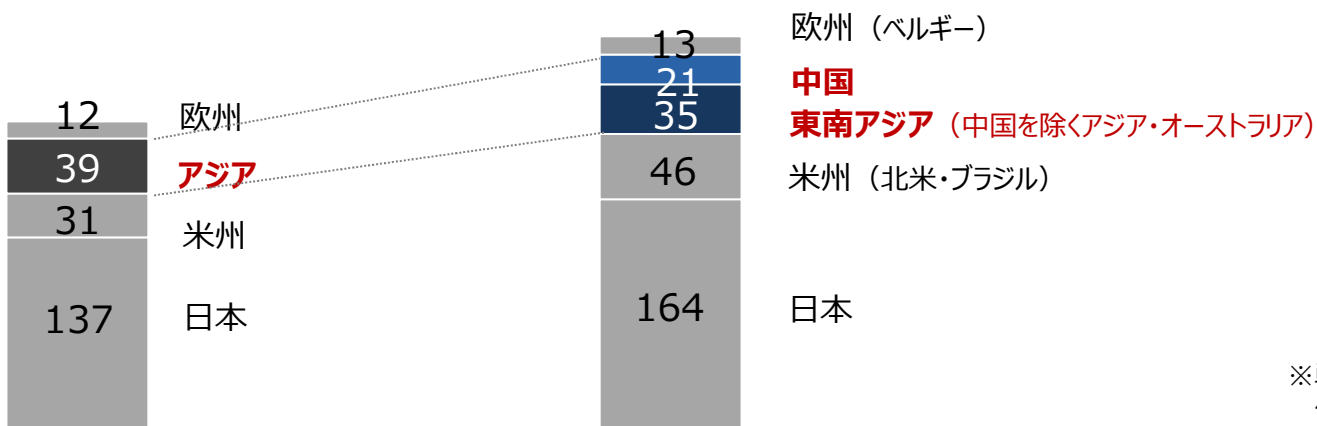
Blommerの取得による業務用チョコレート事業の拡大により、事業セグメント区分・および実態に即した名称へ変更

事業



中国事業の拡大により、エリアセグメントの区分変更

エリア



※単位：億円
グループ管理費用除く

FY2018は修正予想を上回り、FY2019は営業利益CAGR6%ペースを維持

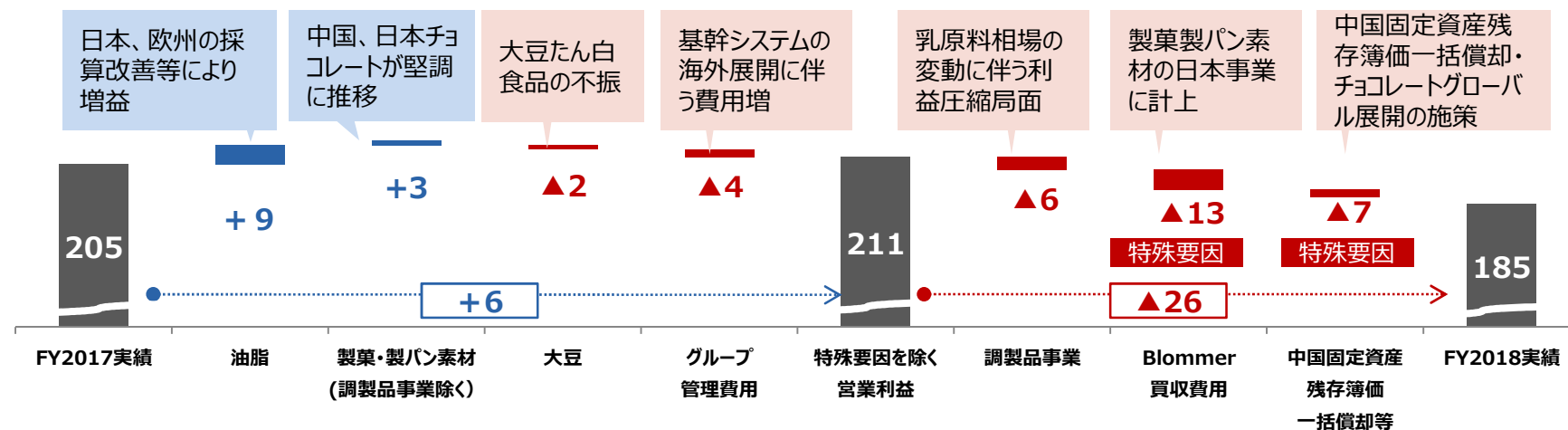
	FY2017 実績	FY2018 2月修正予想	FY2018 実績	FY2019 業績予想
売上高	3,076	3,030	3,008	4,300
植物性油脂	1,136	1,105	1,097	1,139
業務用チョコレート	686	688	686	1,874
乳化・発酵素材	875	873	865	915
大豆加工素材	380	364	361	372
営業利益	205	180	185	240
植物性油脂	73	80	81	91
業務用チョコレート	85	70	74	103
乳化・発酵素材	45	34	33	43
大豆加工素材	35	31	33	41
グループ管理費用	▲33	▲35	▲37	▲38
営業利益率	6.7%	5.9%	6.2%	5.6%
経常利益	200	175	182	220
親会社株主に帰属する当期純利益	137	112	116	152
EBITDA	310	292	300	392
ROE	8.8%	7.0%	7.3%	9.4%
CCC	103日	-	(※1) 105日	105日

FY2018は日本が修正予想から上振れ

(単位：億円)

エリア		FY2017 実績	FY2018 2月修正予 想	FY2018 実績	対修正予想		対前年	増減率
売上高	日本	1,758	1,731	1,710	▲21	▲1%	▲48	▲3%
	米州	508	458	460	+2	+1%	▲48	▲9%
	東南アジア	377	392	390	▲2	▲0%	+13	+4%
	中国	194	214	214	+0	+0%	+20	+10%
	欧州	240	235	234	▲1	▲0%	▲6	▲2%
		3,076	3,030	3,008	▲22	▲1%	▲68	▲2%
営業利益	日本	150	131	137	+6	4%	▲12	▲8%
	米州	37	31	31	+0	+0%	▲6	▲16%
	東南アジア	32	22	20	▲1	▲7%	▲12	▲37%
	中国	15	16	19	+2	+15%	+4	+25%
	欧州	4	13	12	▲1	▲10%	+7	+171%
	連結調整、 グループ管理費用	▲34	▲33	▲34	▲1	▲3%	▲0	▲0%
		205	180	185	+5	3%	▲20	▲10%

FY2018は油脂が伸長もBlommer買収費用等により減益



営業利益 上段18年度 下段17年度		日本	米州	アジア			欧州	連結調整、 グループ管理費用	連結合計
				計	東南アジア	中国			
植物性油脂		40 28	18 23	12 17	9 12	3 5	12 4	0 1	81 73
製菓・ 製パン 素材	計	83 88	14 14	21 27	12 20	10 7	- -	▲10 1	108 130
	業務用 チョコレート	64 61	14 14	9 9	10 8	▲0 1	- -	▲13 0	74 85
	乳化・発酵 素材	18 26	- -	12 18	2 13	10 6	- -	3 0	33 45
大豆加工素材		26 32	- -	6 3	- -	6 3	- -	1 1	33 35
連結調整、 グループ管理費用		▲12 2	▲0 0	▲0 ▲0	▲0 ▲0	- -	- -	▲24 ▲36	▲37 ▲33
連結合計		137 150	31 37	39 47	20 32	19 15	12 4	▲34 ▲34	185 205

FY2019はBlommer P/L連結開始

	FY2017 実績	FY2018 実績	FY2019 業績予想	対前年 増減額	対前年 増減率
売上高	3,076	3,008	4,300	+1,292	+43%
植物性油脂	1,136	1,097	1,139	+42	+4%
業務用チョコレート	686	686	1,874	+1,188	+173%
乳化・発酵素材	875	865	915	+50	+6%
大豆加工素材	380	361	372	+11	+3%
営業利益	205	185	240	+55	+30%
植物性油脂	73	81	91	+9	+11%
業務用チョコレート	85	74	103	+29	+39%
乳化・発酵素材	45	33	43	+10	+29%
大豆加工素材	35	33	41	+8	+26%
連結調整・ グループ管理費用	▲33	▲37	▲38	▲1	▲1%
営業利益率	6.7%	6.2%	5.6%	-	-
経常利益	200	182	220	+38	+21%
親会社株主に帰属する 当期純利益	137	116	152	+36	+31%
EBITDA	310	300	392	+92	+31%
ROE	8.8%	7.3%	9.4%	-	-
CCC	103日	105日	105日	-	-

Blommer P/L連結への影響

Blommer 売上高
(19年2月～20年1月) (※1)

\$1,020 mil
(前年同期間 \$952 mil)

Blommer EBITDA

\$59 mil
(前年同期間 \$56 mil)

CCC

FY18
・Blommer 137日
・既存事業 105日

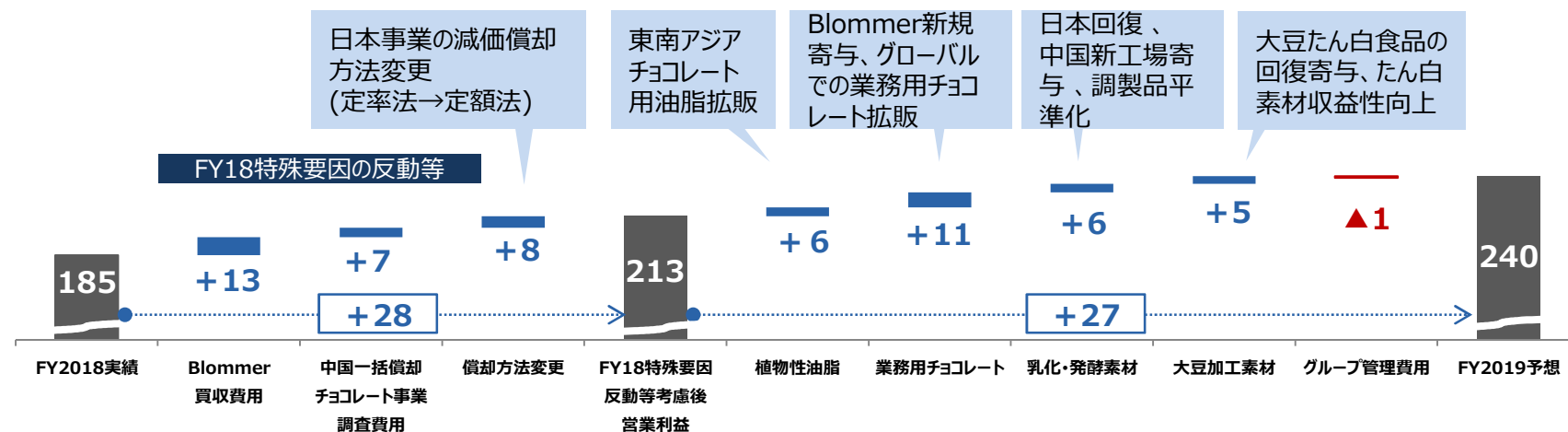
FY19計画
・Blommer 117日
・既存事業 101日

(※1) Blommer決算期

・Blommer社は5月決算。不二製油グループP/Lへの取り込みは2～4月を1Qとして実施。(FY2019：1Q 2019年2-4月、2Q 5-7月、3Q 8-10月、4Q 11-1月)

・前年比較値は連結会計年度と同期間(2018年2月～2019年1月)で算出した値を使用。

事業の成長により増益図る



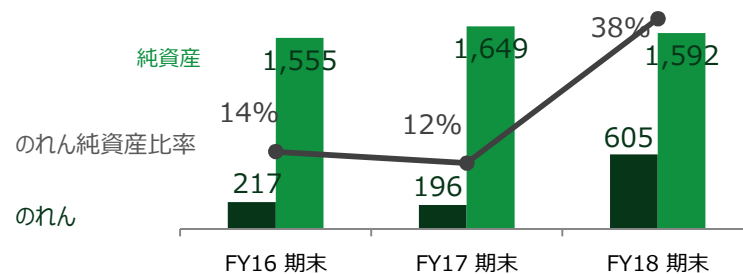
営業利益 上段19年度計画 下段18年度実績		日本	米州	アジア			欧州	連結調整、 グループ管理費用	連結合計
				計	東南アジア	中国			
植物性油脂		37 40	22 18	19 12	15 9	4 3	13 12	0 0	91 81
製菓・ 製パン 素材	計	91 83	24 14	32 21	20 12	12 10	- -	0 ▲10	146 108
	業務用 チョコレート	67 64	24 14	12 9	11 10	1 ▲0	- -	0 ▲13	103 74
	乳化・発酵 素材	24 18	- -	20 12	9 2	11 10	- -	▲0 3	43 33
大豆加工素材		34 26	- -	6 6	- -	6 6	- -	1 1	41 33
連結調整、 グループ管理費用		2 ▲12	- ▲0	▲0 ▲0	0 ▲0	▲0 -	- -	▲40 ▲24	▲38 ▲37
連結合計		164 137	46 31	57 39	35 20	21 19	13 12	▲39 ▲34	240 185

有利子負債の削減を進めNet D/Eレシオの改善を図る

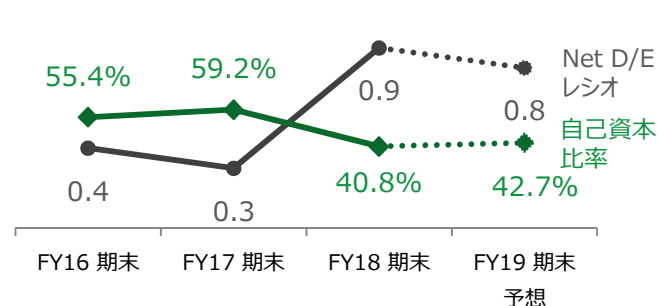
	項目	FY2017実績	FY2018実績	FY2019 計画	備考
B/S項目	流動資産	1,308	1,854	2,042	
	固定資産	1,399	1,980	1,888	欄外参照①
	資産合計	2,707	3,834	3,930	
	有利子負債	566	1,605	1,535	欄外参照②
	その他負債	492	637	686	
	負債合計	1,058	2,242	2,221	
	純資産合計	1,649	1,592	1,709	資本剰余金の減少 為替換算調整勘定の減少
CF項目	税金等調整前当期純利益	188	165	222	
	減価償却費	109	120	152	※有形と無形の固定資産の償却額
	その他増減	▲15	▲59	▲54	
	営業キャッシュ・フロー	282	226	320	
	投資キャッシュ・フロー	▲145	▲791	▲219	
	フリーキャッシュ・フロー	137	▲565	101	
	財務キャッシュ・フロー	▲135	655	▲139	

参照① のれん純資産比率

FY2018は
Blommer買収により
B/S指標が悪化

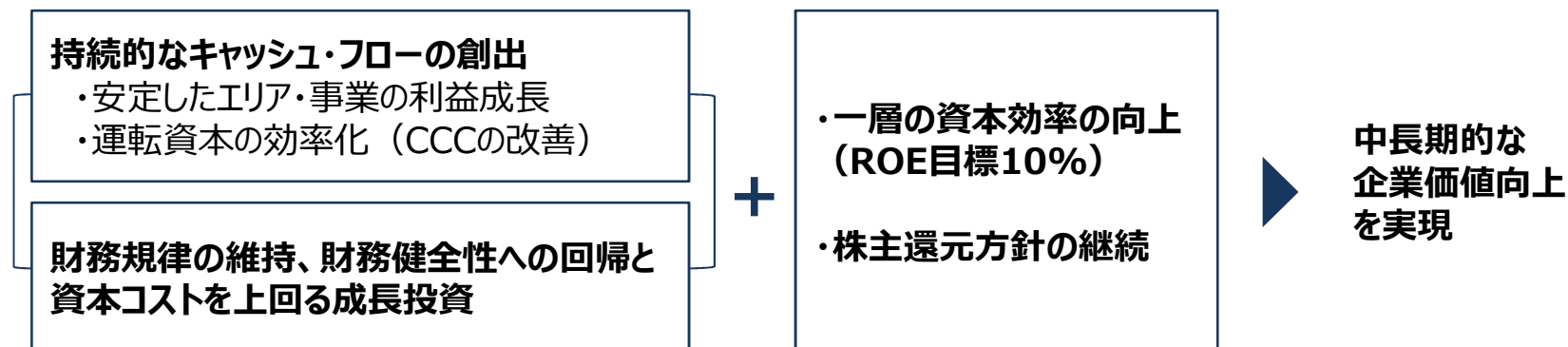


参照② Net D/Eレシオ 自己資本比率



財務の健全性を担保し、資本効率の維持・向上を果たす

資本政策の基本方針



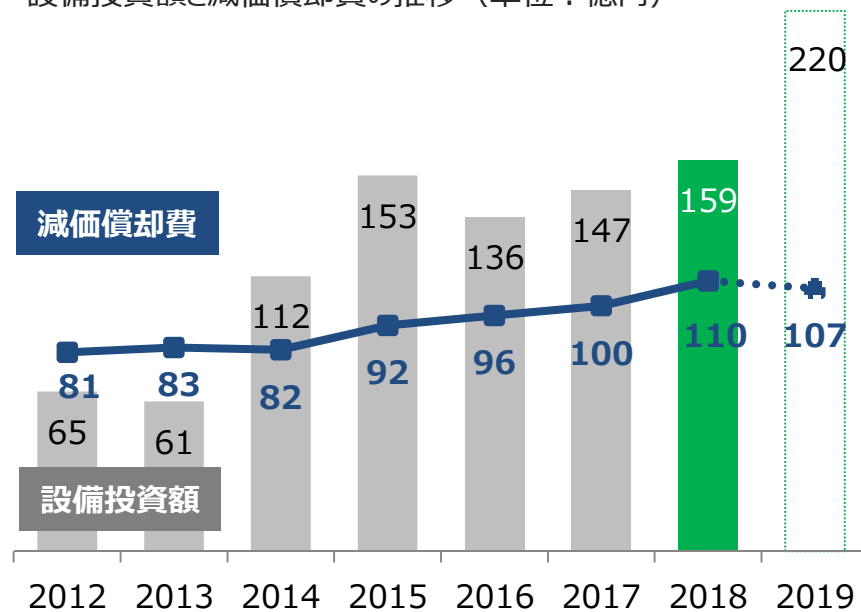
財務の健全性の担保、資本効率の維持・向上

・FY2018：Blommerを約650億円で取得 → FY2019：劣後債などによる資金調達を実施

持続的な利益成長	営業CFの創出	300億円以上の創出
	CCCの改善	既存会社の改善とBlommerの運転資本（在庫）の低減
財務健全性への回帰	劣後債による一時的な資本増強	劣後債の発行予定 350～400億円
		自己資本比率 50%以上を目標
		Net D/Eレシオ 0.5以下を目標
資本効率の向上	資本コストを重視した設備・事業投資	成長投資は継続 但し厳選 事業ポートフォリオの再構築
株主還元方針の継続	配当性向	30-40%を維持

成長投資は継続も、資本コストを上回る投資に厳選

設備投資額と減価償却費の推移（単位：億円）



（注）減価償却費は有形固定資産のみ

新投資基準を順守

- ・2018年導入
- ・各国別資本コストをベース
- ・優先順位（事業・エリア別・基盤投資）明確化



主な設備投資と減価償却

FY2018年 実績		FY2019 計画	
設備投資	159	設備投資	220
・中国フィリング・マーガリン新拠点	23	・米国油脂 新拠点	51
・米国油脂 新拠点	12	・Blommer 設備投資	13
減価償却	110	減価償却	107

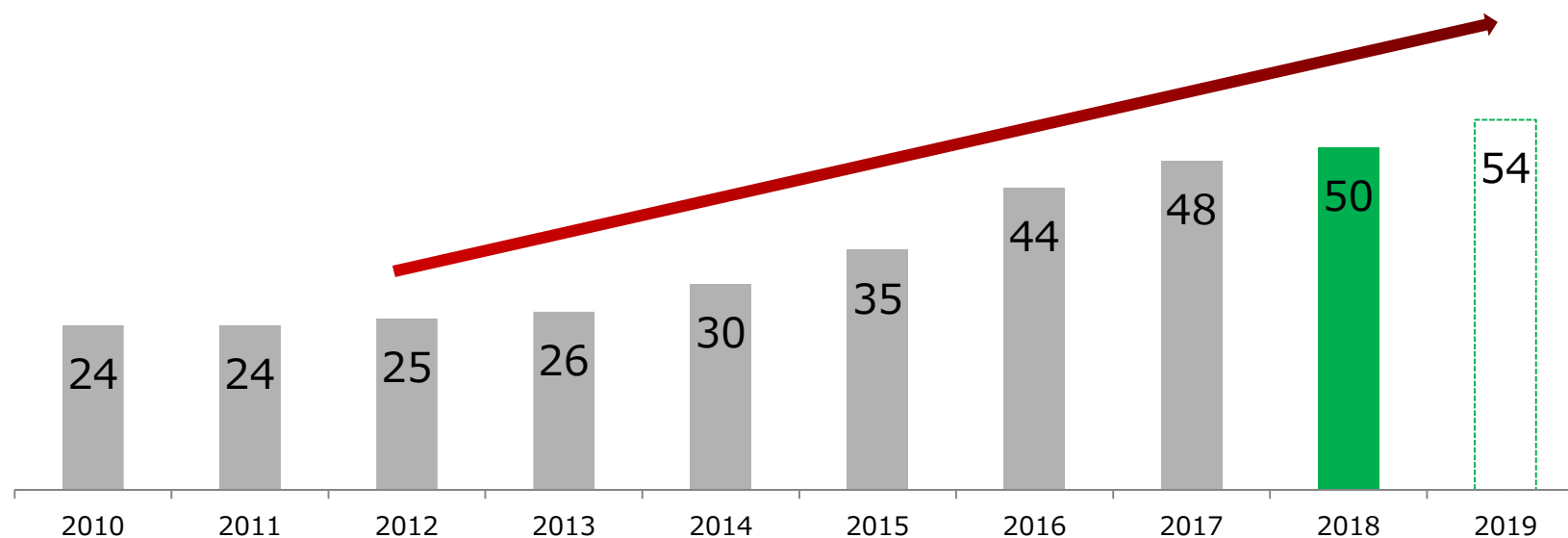
配当方針に基づき、安定的かつ継続的な配当を実施

配当方針

- ・ 配当性向30%～40%
- ・ 安定的かつ継続的な配当を実施

年間配当額推移（単位：円）

8期連続の増配を計画



FY	上期	下期	年間計	配当性向
FY2018 実績	25円	25円	50円	37.1%
FY2019 配当予想	27円	27円	54円	30.5%

事業別概況

FY2019 チョコレート事業拡大と戦略製品群の新たな展開

基本方針		参考 2016	中期経営計画「Towards a Further Leap 2020 (2017-2020)」			
			2017	2018	2019	2020
コアコンピタンスの強化	チョコレート	マレーシア拠点取得	・ブラジル収益改善 ・日本の生産キャパシティ増強 ・M&Aを探索	・Blommer買収決定 ・オーストラリア拠点取得	・Blommer PMI ・グローバルチョコレート戦略 本格開始 ・日本 カラーチョコレート 増設設備 下期稼働開始	・チョコレート 販売数量の 拡大
	その他	SIC設立 中国生産能力増	・中国新工場建設開始 ・米国需要取り込み ・東南アジア 能力増	・中国新工場稼働開始 ・フジサニープラザ済南設立 ・米国第2拠点建設開始	・中国新工場通年寄与 ・日本 乳化・発酵素材事業 新領域等での販売強化	・米国第2 拠点稼働 (下期)
大豆事業の成長	選択	堺工場閉鎖決定	・堺工場閉鎖 ・石川工場譲渡 ・コモディティ生産拠点見直し	・吉林 事業譲渡	・事業ポートフォリオチェンジ推進	・事業ポート フォリオチェン ジ継続
	集中	高付加価値品販売注力	・高付加価値品販売増 ・大豆市場の創出	・大豆ミートの増産体制構築決定 ・新エリアでの事業検討開始	・日本の市場創造を継続 ・収益重視の販売推進	・大豆ミートの 新工場稼働 (上期)
機能性高付加価値製品群の展開	多糖類		・水溶性大豆多糖類 増産体制構築意思決定	・水溶性大豆多糖類増産開始	・多糖類事業販売エリア拡大検討	・多糖類の 海外販売 拡大
	安定化 DHA・EPA		・機能性食品表示の取得	・上市に向けた生産体制構築 ・米国でSelf-Glass取得	・日本での販売を進める ・海外でのワークを進める	・収益貢献
コストダウンとグローバルスタンダードへの統一	財務戦略		・グローバルCMS基盤構築 ・基幹システムの導入開始	・基幹システム・グローバルCMS 一部拠点で運用開始 ・グループ金融制度再構築 ・新投資基準の導入	・基幹システムの導入 継続 ・撤退基準の導入	・決算期、 会計基準 統一準備
	その他 経営基盤	「責任あるパーム油調達方針」	・UNIFUJI設立 ・生産性推進グループ監査開始	・UNIFUJI稼働開始 ・「責任あるカカオ豆調達方針」 ・グリーバンスメカニズム導入 ・「環境ビジョン2030」策定	・UNIFUJI認証油販売本格開始 ・C“ESG”O 新設 ・PBFS事業部門新設 ・「環境ビジョン2030」推進	・ESG経営 を推進

収益性を維持し、戦略製品群の拡販による増益の実現

2018年度実績

<日本> 収益性重視の販売が奏功

- ・収益性重視の販売を推進・継続
- ・パーム、パーム核油の相場下落

営業利益率
対前年
+3.3 pt

<東南アジア> 原料相場下落による販売不振

- ・パーム、パーム核油の相場下落により
在庫のコモディティ製品群の採算性低下

<米州> 寒波・ハリケーンで稼働率低下

- ・1月寒波・9・10月ハリケーンの影響で
工場稼働率低下

営業利益率
対前年
▲1.3 pt

<欧州> 販売堅調

2019年度計画

<日本> 収益性向上施策の継続

- ・収益重視の販売の継続
- ・安定化DHA EPAの実績化

<東南アジア> チョコレート用油脂拡販継続

- ・原料相場環境は一巡
- ・サステナブル原料使用製品の拡販

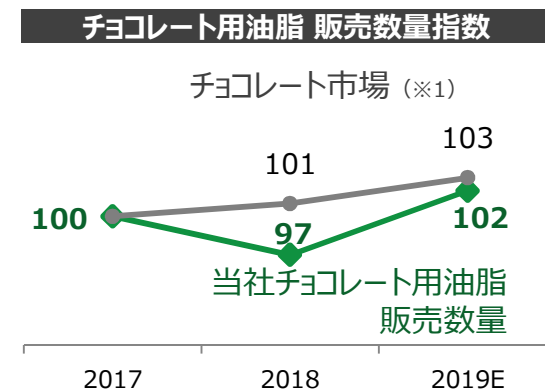
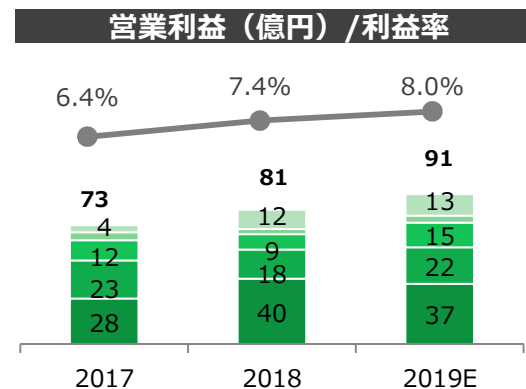
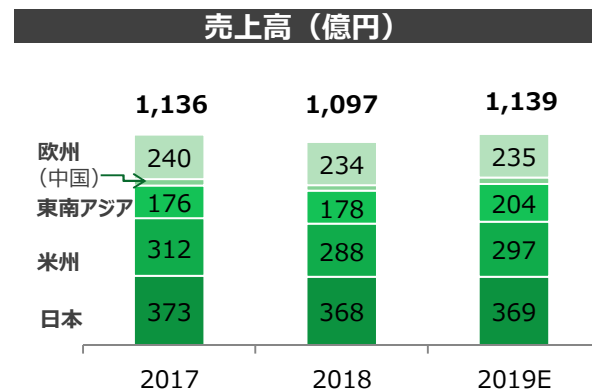
数量計画 対前年
102 %

<東南アジア> UNIFUJI認証油販売本格開始

- ・FY2019はフル寄与（持分法適用）
- ・欧州を中心に、サステナブルパームの
需要に応えた拡販を計画



<欧州・米州> 堅調な販売継続



Blommer P/L連結開始、グローバル戦略の推進と拡販

2018年度実績

<北米> Blommer取得を決定

<ブラジル> 戦略的に数量横ばい・利益は確保

<日本> 逆風下でも優位性を発揮

- ・震災、台風、酷暑などにより消費動向は逆風の年
- ・高付加価値品を中心に増益を実現



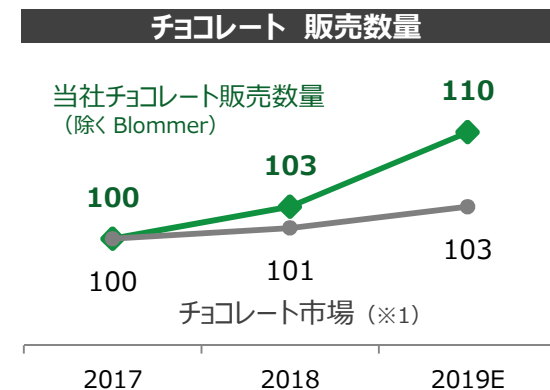
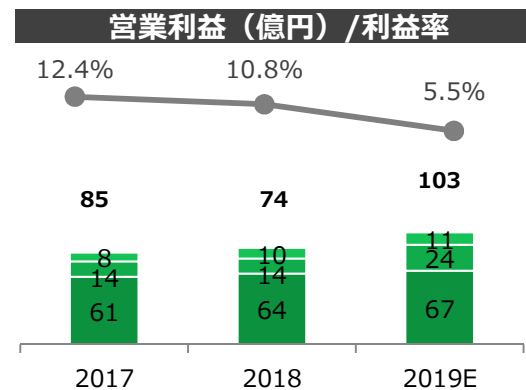
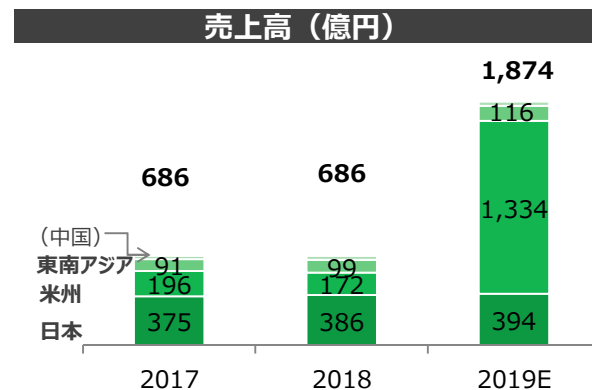
成型・カラーチョコ

<東南アジア> 広域拡販体制を強化

- ・成長する市場での競争が続く
- ・オーストラリア Industrial Food Services 新規連結(10月)
- ・東南アジア域内の戦略的連携体制構築開始



Industrial Food Services



2019年度計画

<北米> Blommer PMIを推進

Blommer関連
P24参照

<中国> Blommer中国拠点とのシナジー創出

<ブラジル> より高付加価値型の事業モデルへ

- ・オペレーション改善、販売体制構築による採算向上
- ・販売ポートフォリオの見直し継続
- ・資本コストを上回る成長戦略策定、域内におけるプレゼンスを向上



店頭での陳列

<日本> 高付加価値品の拡販継続

- ・下期後半 カラーチョコレート増設設備稼働開始

<東南アジア> 拠点配置を活かした広域拡販

日本の収益力向上と中国新工場の通期稼働へ

2018年度実績

<中国> 新工場稼働、収益貢献開始

- ・6月 フジサニープラザ済南設立
- ・7月 新工場稼働開始 年内単月黒字実現
- ・クリーム、マーガリンは市場を上回る成長を継続、シェア拡大

中国国内シェア
フィリング1位
マーガリン 2位

<日本> 天災対応等で施策推進に遅れ

- ・震災、台風等の天災被害の対応発生 新施策の着手に遅れ
- ・酷暑でマーケットが低迷



<東南アジア> 調製品事業の利益減少

- ・乳製品価格の影響により調製品事業の利益減少

2019年度計画

<中国> 新工場通年寄与

- ・張家港と、肇慶の工場の順調な稼働と供給体制の構築
- ・固定費や人件費の増は保守的に計画
- ・製菓・製パン市場での次なる成長戦略のための拡販体制検討



新工場マーガリンライン

<日本> 収益性向上・差別化戦略に注力

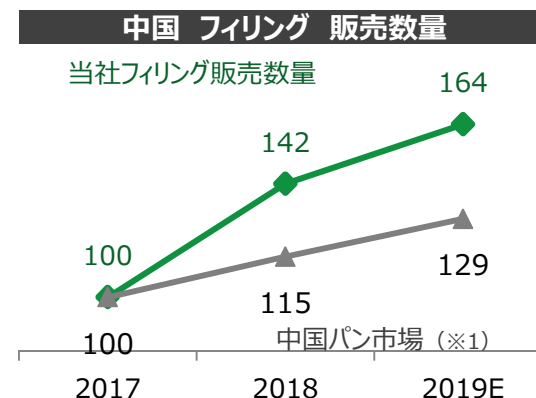
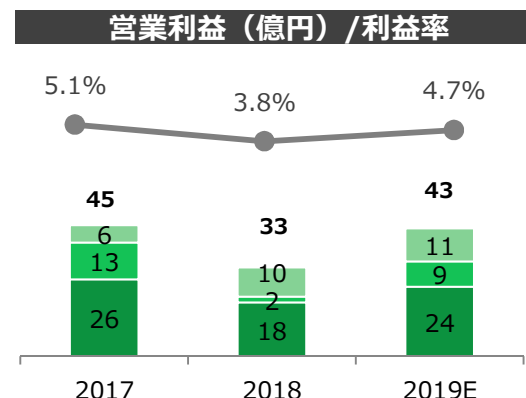
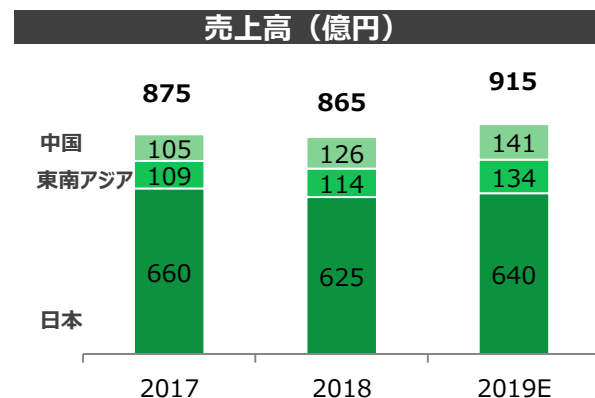
- ・<収益性向上>
品種統合などによる生産効率向上
- ・<差別化>
植物性の価値に訴求した製品群



新製品 ボタニカルクリーム

<東南アジア> 調製品の利益水準は平準化

- ・乳製品価格の影響は平準化
- ・アジアでの拡販を進め、収益向上を図る



国内市場の収益改善と事業エリア拡大

2018年度実績

<日本> 特殊要因で減益も、市場は拡大

- ・天災・工場改修にともなうトラブルなど
特殊要因が相次ぐ
- ・好調な大豆ミートは新工場建設の投資を決定
(2020年7月稼働開始予定)



大豆ミート（粒状大豆たん白）



採用品イメージ

<中国> 事業ポートフォリオチェンジが進行

- ・18年7月 機能性高付加価値製品の生産ライン新設
- ・19年2月 吉林不二蛋白有限公司の
持分譲渡手続き完了

2019年度計画

<日本> 特殊要因一巡、収益性向上を図る

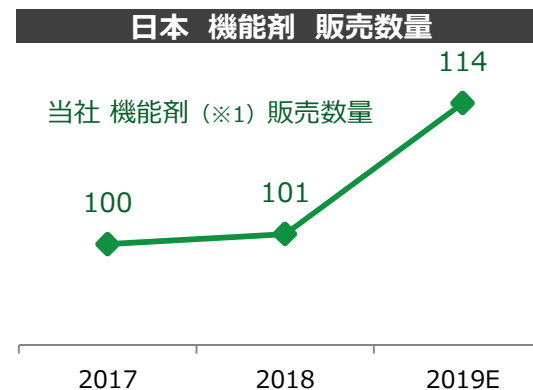
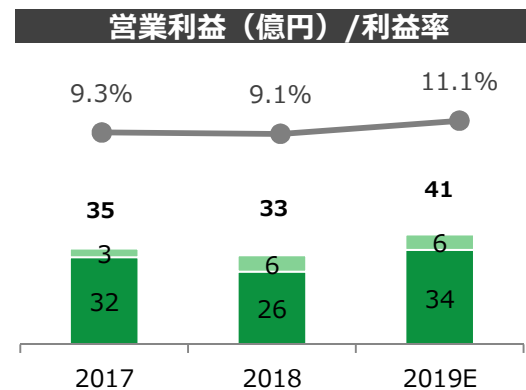
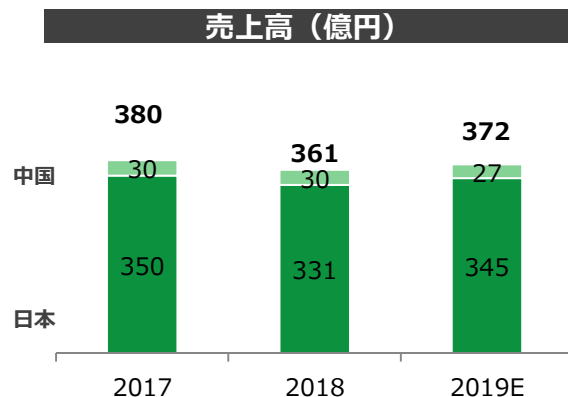
- ・市場創出のための仕掛けを継続
- ・FY2018の特殊要因は解消
- ・選択と集中を継続、収益性重視の販売を推進
- ・技術の複合化による差別化を推進

<中国> ポートフォリオチェンジを継続

- ・機能性高付加価値製品の新ラインを活用し
事業ポートフォリオチェンジを継続

<全体> 事業エリア拡大戦略の検討

- ・PBFS事業部門新設
- ・米州：植物性チーズ販売体制構築の検討
- ・欧州：多糖類事業の可能性継続検討
- ・アフリカ：将来的な事業化のためのリサーチ継続



2019年度は 不透明な国内外の事業環境下、20年中計達成に向け 高い危機意識を持って経営に当たる

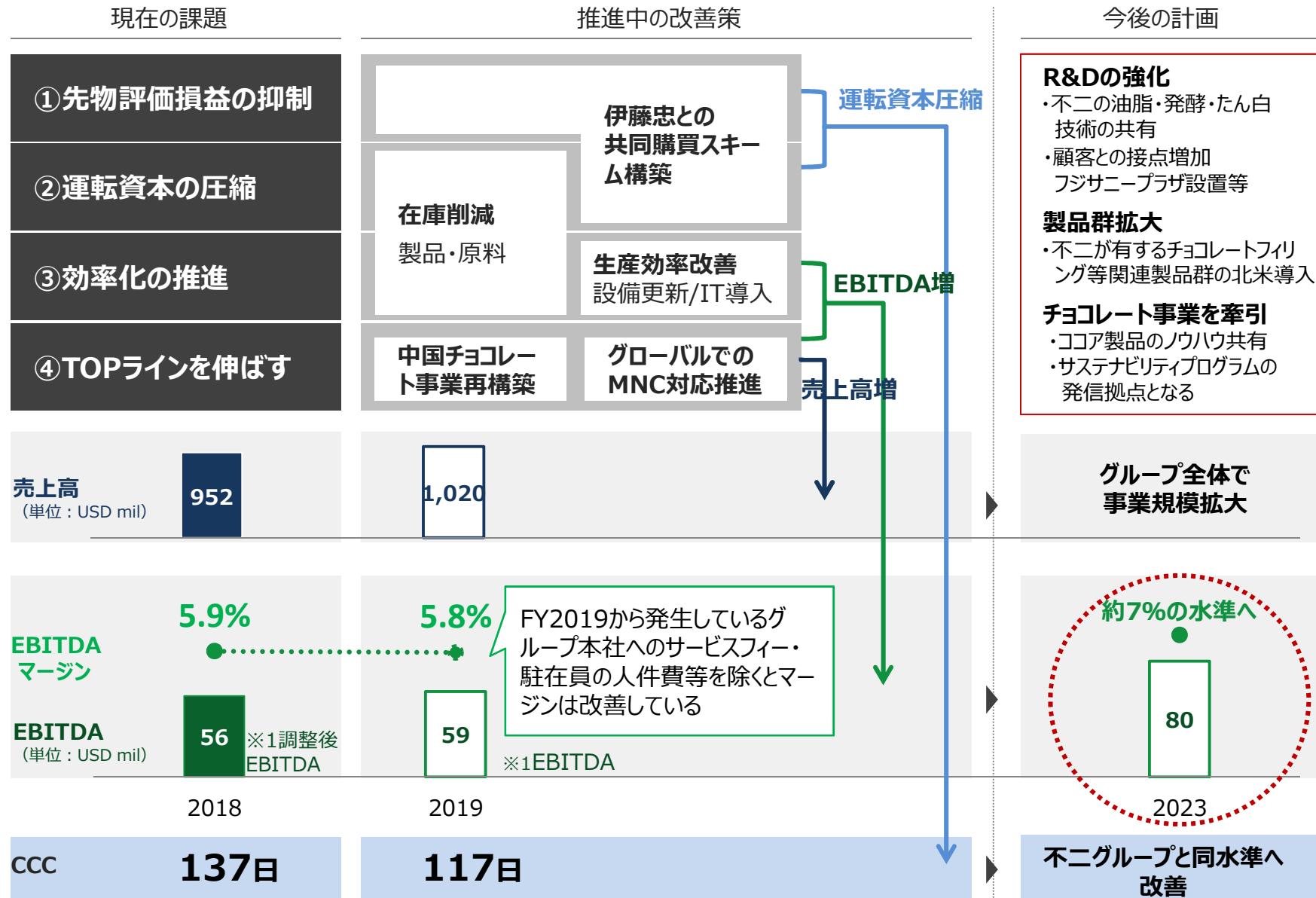
- 既存事業の成長を確実に取り込み、質の高いTOPライン成長を実現
- Blommerのグループへの収益貢献を実現
- グローバル化の進展に対応したエリア・事業の両軸によるグループ経営を推進
- 事業再構築・生産性向上・業務改革によるコストダウンを追求
- 財務体質改善に向けFCF100億円を創出するために、投資の厳選とCCC改善を実現



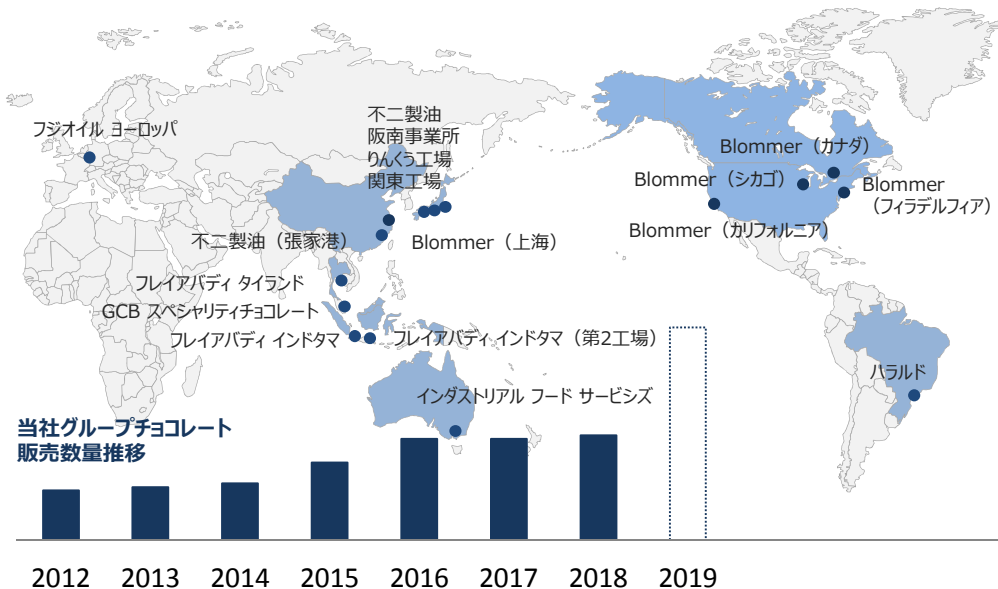
3. Blommer FY2019計画 チョコレートのグローバル戦略

Blommer Chocolate Company Chairman
酒井 幹夫

FY2019は経営効率向上を重点的に推進



グローバルチョコレート戦略の始動



チョコレート事業をドライバーに 持続的なグループの成長を果たす

- ・世界の市場におけるプレゼンス向上
- ・継続的なキャッシュの創出
- ・リソース、市場基盤を活用し
他の事業の展開、成長を牽引

グローバルチョコレート戦略 重点項目

①グループ経営の強化

②基幹製品群の競争力向上

③コンパウンド需要取り込み

④サステナブルな原料調達

第1回チョコレートユニット会議開催（2019年4月）

各グループ会社トップによる定例会、分科会の運営を開始

①MNC（※1）対応体制構築

- ・各グループ会社担当設置
- ・担当者間コーディネーター任命

②サステナビリティプログラム構築

- ・不二の調達方針とBlommerのプログラムの共有とアクションプランの策定

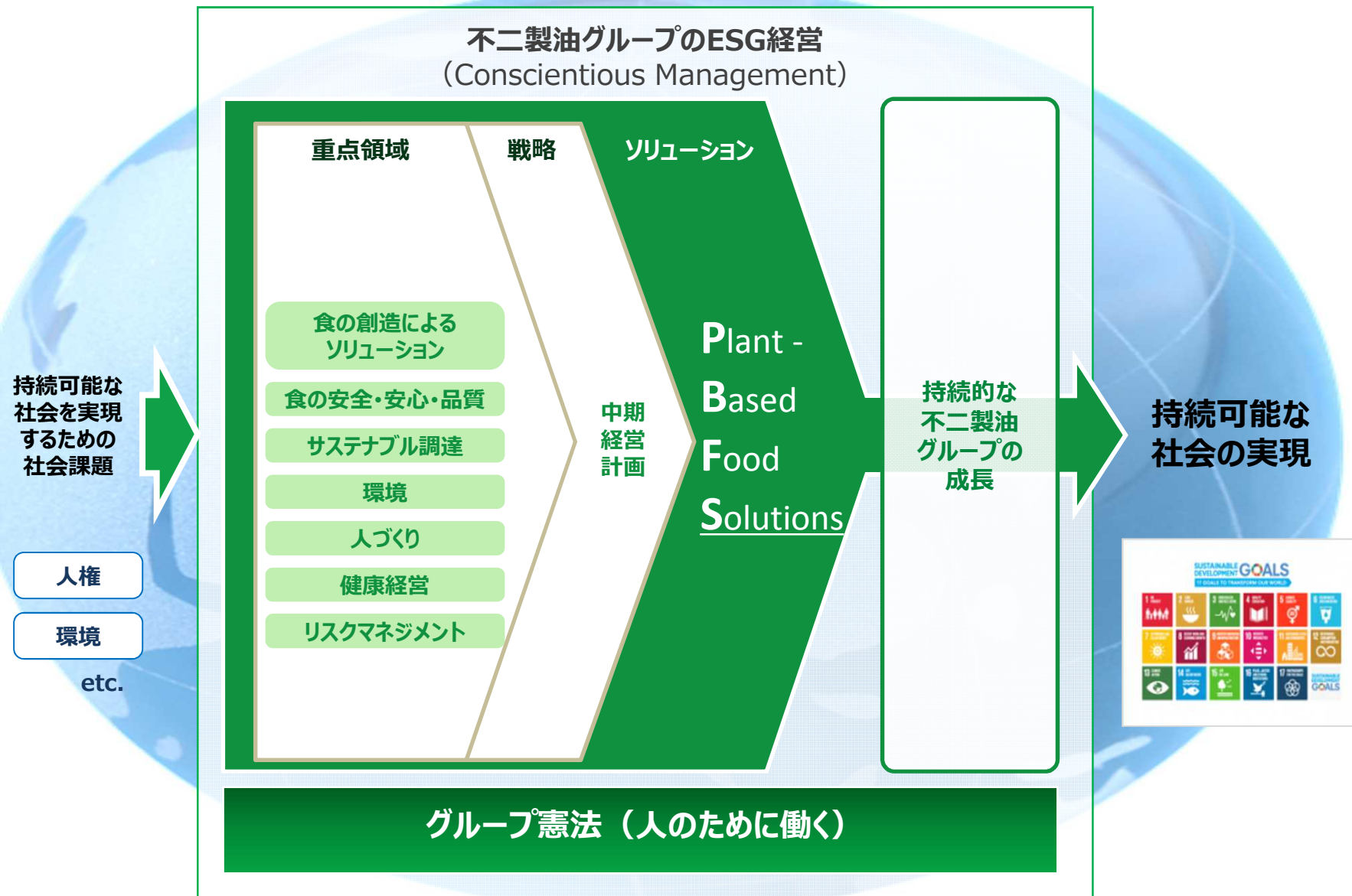
③原料調達連携による効率化

- ・VGP（※2）の運用拡大、
グループ連携によるコストダウン策検討



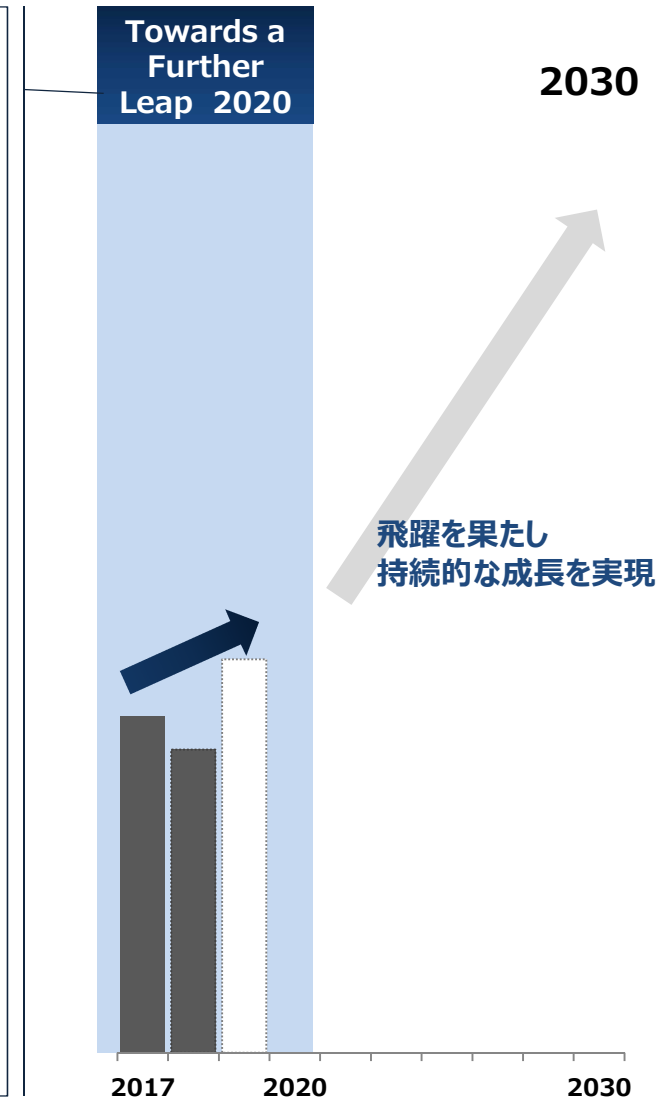
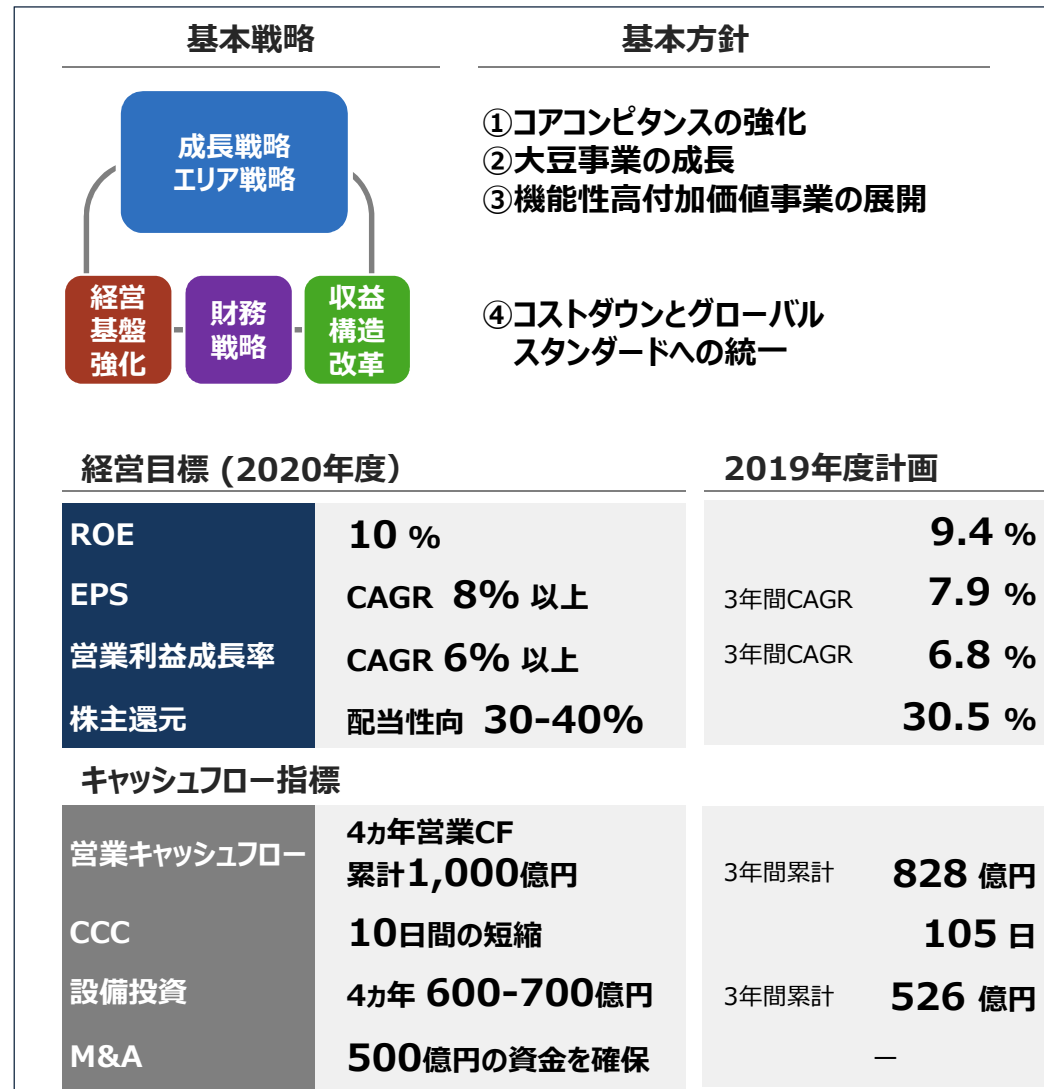
Appendix

不二製油グループのESG経営



Towards a Further Leap 2020 (2017-2020)

次の飛躍に向けた基盤作りを完遂する4年間



Towards a Further Leap 2020 (2017-2020) 進捗

基本方針

コアコンピタンスの強化

強みを発揮できる市場、製品群を確実に伸ばす

項目	エリア	FY2018施策進捗	FY2019施策
油脂事業の拡大	米国	・新拠点建設開始 ・エリア統括会社設立	・新拠点建設継続
	東南アジア	・UNIFUJI稼動開始	・UNIFUJIを中心としたサステナブルパームの拡販推進
チョコレート事業の拡大	日本	・高付加価値品へのシフト進む	・高付加価値品の拡販継続とカラーチョコレートの増設
	北米	・Blommer取得 B/S連結開始	・Blommer PMI P/L連結開始
	ブラジル	・価格政策で収益性を維持 製品ポートフォリオの見直し	・より高付加価値型事業モデル構築に向けた構造改革
	東南アジア	・オーストラリア Industrial Food Services社 株式を取得	・域内での拠点配置を活かした広域拡販
	中国	・パン市場向けの拡販に加え、 チョコレート販売も好調	・Blommer中国拠点との合理化 ・製菓・製パン市場における次なる成長戦略
	欧州	・チョコレート販売好調	・既存設備の最大活用と高付加価値品への注力
	M&Aなど	・Blommer取得	・資本コストを上回る成長投資を継続
アジアの拡販	東南アジア	・ボトルネック解消し、東南アジア各国 へのクリームの拡販進む	・各国の市場状況に適した戦略に沿った拡販活動の実施
	中国	・フジサニープラザ済南を設立 ・新工場7月稼動開始	・製菓・製パン市場での次なる成長戦略のための 拡販体制構築検討

Towards a Further Leap 2020（2017-2020）進捗

基本方針

大豆事業の成長

- ・地球と人の健康を追求
- ・時代に合った製品の提供（フレキシタリアン）

項目	FY2018施策進捗	FY2019施策
構造改革最終ステージ	・吉林不二蛋白有限公司の持分譲渡 ・大豆たん白食品事業再構築検討	・事業ポートフォリオチェンジ推進 ・日本の市場創造を継続 ・収益重視の販売促進
プラントプロテイン市場への展開	・粒状大豆たん白能力増を決定 ・海外での事業展開検討開始 ・米国エリア統括会社設立、植物性チーズのサンプルワークすすめる	・米州での植物性チーズ販売体制構築の検討

基本方針

機能性高付加価値製品群の展開

- ・多糖類事業、安定化DHA/EPAの事業展開
- ・栄養・健康分野への進出
- ・グループ収益の安定化を図る

項目	FY2018施策進捗	FY2019施策
安定化DHA・EPA事業	・2019下期本格発売に向け進める	・下期からの本格発売に向け活動
多糖類事業	・水溶性大豆多糖類能力増強完了 ・欧州エリア統括会社設立	・多糖類事業のエリア拡大の継続検討

財務戦略 進捗

中期経営計画 財務運営方針				FY2018年		今後の考え方
1	持続的な利益成長	・連結営業利益 CAGR6%以上 ・EPS成長率 CAGR8%以上 ・CCC 10日間の短縮	キャッシュフローの創出と配分 営業CF4年間1,000億円創出	営業CF	226億円 (対前年同期比▲56億円)	FCF創出力の強化
				CCC	・Blommer B/Sのみ連結のためグループトータルでの実績比較不可 ・既存事業のみ実績 105日 (対前年同期比 +2日)	CCCの低減に向けて 国内：在庫削減、 海外：サイトの短期化 Blommer：在庫適正化
2	財務の健全性堅持	・事業特性、リスクを踏まえ、安定した財務基盤を堅持	リスク・リターンに見合うBS管理	有利子負債	有利子負債 1,605億円 (前年度末比 +1,039億円)	成長投資は厳選し、財務の健全性を堅持
				Net D/E レシオ	0.9 (前年度末比 +0.6p)	0.5以下を目標
				自己資本比率	40.8% (前年度末比▲18.4p)	利益の蓄積による自己資本の充実を図る
3	資本効率の向上	・競合するグローバル企業と並び、持続的な成長に必要な水準へ向上	ROEの向上 10%	総資産回転率	0.92回 (前年同期比▲0.21回)	Blommerなど早期改善を進める
				不採算事業資産	売却等による検討継続	引き続き実施検討を行なう
				設備投資	新基準による運用開始	低効率な設備投資の抑制
4	財務ガバナンス強化	・標準化、金融リスク低減、業務効率化を推進 ・グローバルでの比較検証を可能に	グループ財務標準・基準	グローバル資金管理	各エリア内CMS(※1)運用開始	グローバルでの資金調達体制構築
				基幹システムの統一	米国・中国新工場導入・日本での構築開始	継続実施
				決算期統一に向けた決算早期化	早期化トライアルフェーズへ移行	Blommer決算早期化に向けたロードマップ作成

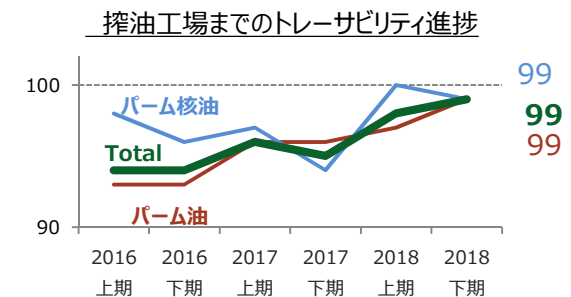
PICK UP : サステナブル調達 <パーム>

基本方針

「責任あるパーム油調達方針」(2016年3月～)

<目標>

- ・不二製油グループのパーム油サプライチェーンにおけるNDPEの実現
(NDPE : No Deforestation , No Peat, No Exploitation
森林破壊ゼロ、泥炭地開発ゼロ、搾取ゼロ)
- ・2020年までに搾油工場までのトレーサビリティ (Traceable To Mill) 100%



	取組み	狙い	FY2018進捗
1	トレーサビリティ向上	サプライチェーンの把握	グループ全体のトレーサビリティ 99%へ向上 (上記参照)
2	サプライチェーン改善活動	影響力を行使しサプライチェーン上のリスクを低減	・サプライヤーとのエンゲージメント継続 ・セルフアセスメントツール提供と回収による各サプライヤーの進捗状況確認 ・リスクの高いサプライチェーンに対する、サプライヤーと共同した改善活動実施 ・「Areal Prioritas Transformasi ランドスケープイニシアチブ」への参画と活動推進 ・ボルネオ島での小規模農家支援活動：新たに32軒がRSPO認証取得
3	検証	サプライチェーン改善状況の確認	・人工衛星を使用して森林の状況をモニタリング・検証する仕組みのFY2019からの導入検討
4	グリーバンス(苦情処理)メカニズム(※1)	サプライチェーン上の問題の早期発見・改善	・2018年5月：グリーバンスメカニズムを構築・公表、運営開始 ・2018年6月：「サプライチェーン上の搾油工場リスト」公表
5	RSPO認証油の供給	サステナブルな方法で生産されたパーム油の普及	・グループ全体の認証油取り扱い量：総量の約17%
6	UNIFUJI	サステナブルなパーム油の供給力強化	・UNIFUJI (2017年11月に設立を発表した、調達から生産までのプロセスで、徹底的に地球環境と労働者に配慮しパーム油の分別事業を実施する合併会社) 稼働開始
7	学術機関・業界との連携	ステークホルダーとのコラボレーションによる人権・環境問題の効果的改善	・育種研究による生産性向上への取組み継続 ・持続可能なパーム油会議 (Japan Sustainable Palm Oil Conference) 協賛

「責任あるパーム油調達方針」の進捗状況を簡潔かつタイムリーにお知らせするためのWEBページ「Dash Board」を公表しました
URL (英文) : https://www.fujioilholdings.com/en/csr/supplychain_database/

(※1) グリーバンスメカニズム：ステークホルダーから当社グループに提議された問題（グリーバンス）について「責任あるパーム油調達方針」に基づき対応し、サプライチェーンの透明性向上と、問題発生時の改善・是正・対応の強化を果たすためのメカニズム

PICK UP : サステナブル調達 <カカオ>

基本方針

「責任あるカカオ豆調達方針」(2018年8月～)

<コミットメント>

1. 農家の生活環境改善
2. 当社サプライチェーン上の児童労働の撲滅
3. 森林破壊の防止と森林の保全

	取組み	狙い	FY2018進捗
1	コミュニティへの支援活動	生産性の向上・カカオ豆の品質向上・農家およびコミュニティの生活水準の向上	・2018年10月 当社グループの直接サプライヤーと共同しエクアドルでの小規模カカオ農家支援活動開始 ：支援プログラムへの参画：68農家 - 農園管理方法・土壌管理、収穫後のプロセスに関するトレーニング実施 ・モデル農園における、異なる条件で育成したカカオの収穫量の研究の継続 ・近隣エリア生産者への農法教育の実施
2	世界カカオ財団（WCF）への参画	カカオ産業の持続可能な進展	・2012年より加盟を継続
3	認証カカオ原料の取り扱い	サステナブルな方法で生産されたカカオ豆の普及	・Fair Trade認証（開発途上国の原料や製品の購入により生産者の持続的な生活向上を支える仕組み）、UTZ認証（持続可能な農業のための国際的な認証プログラム）の継続取得

2019年よりBlommer連結にともない、Blommerのサステナビリティプログラムも含めた不二製油グループ全体のプログラムを検討開始



農家の収入を補うバナナ栽培と天然の虫除けの黄色い板



土壌やカカオに負荷の低いオーガニックな虫除けスプレーをつくるための技術指導



モデル農園

PICK UP : 安全・品質・環境

前提

「安全と品質、環境」

： 当社グループ憲法のバリュー（私たちが行動する上で持つべき価値観）に掲げる、経営の前提

グローバルな事業拡大

： グループ全体での労働安全・食の安全・安心・品質・環境への取り組みの水準維持向上が不可欠

推進体制

マネジメント体制

： 2019年4月～ C"ESG"O（最高ESG経営責任者）新設
ESG委員会（ESG経営を推進する取締役会の諮問機関）

生産性推進グループ

： 日本の技術者によるサポートを進め、グループ各社の
レベルに応じたPDCAを実行



2018年度上期に監査チェックシートをブラッシュアップ

9月から監査再開
・2018年度は6社を訪問
・レベルの確認・改善箇所を抽出

項目	内容	FY2018進捗
労働安全	重篤災害（※1）ゼロを目指した活動	・重篤災害発生件数はゼロ。 ・従業員1,000人あたりの休業災害件数（休業4日以上）：対前年で減少傾向で推移（3.9件→3.3件/1,000人）
食の安全・安心・品質	海外品質保証体制構築	・品質保証規程及び細則の制定
	FSSC/ISO22000（※2）取得	・日本で10工場追加取得（国内既存工場 68%達成）
環境	新環境ビジョン2030	・新環境ビジョンを策定し、グループ会社各社での運用開始のための周知 環境ビジョン2030（2030年達成目標/基準年度は2016年） ・CO2排出量の削減：総量 24%削減 ・水使用量の削減：原単位 20%削減 ・廃棄物量の削減：原単位 10%削減 ・資源リサイクル：2030年まで再資源化率99.8%以上を維持 *資源リサイクルは日本グループ会社での目標
	CDP（Carbon Disclosure Project）	気候変動質問書2018：B評価 ・ 森林質問書2018：A評価（日本企業初）

（※1）重篤災害：死亡事故、四肢等に後遺症の残る事故、長期入院事故 （※2）FSSC/ISO22000：食品安全マネジメントシステムの国際標準規格

トピックス

2018年5月	「グリーンバンスメカニズム（苦情処理メカニズム）」構築
2018年6月	不二製油（張家港）フジサニープラザ済南を設立
2018年7月	富士通と不二製油、情報システムに関する業務提携
	茨城大学と不二製油グループ本社が大学から企業へのクロスアポイントメント制度を実施
	オーストラリアの業務用チョコレート製造企業の株式取得
	「サステナビリティレポート2018」を公開
	ハラルド社の100%子会社化
2018年8月	フジ ヨーロッパ アフリカ 統括会社設立
	「責任あるカカオ豆調達方針」を策定
2018年10月	初の統合報告書「不二製油グループ 統合報告書2018」発行
	日本証券アナリスト協会「2018年度 ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定
2018年11月	「フードバレー財団」に加盟
2019年1月	日本IR協議会 IR優良企業賞 受賞
	CDP「フォレストAリスト」に選定
2019年2月	米国Blommer Chocolate Company社の株式取得
	吉林不二蛋白有限公司の持分譲渡手続き完了



不二製油グループ本社株式会社

